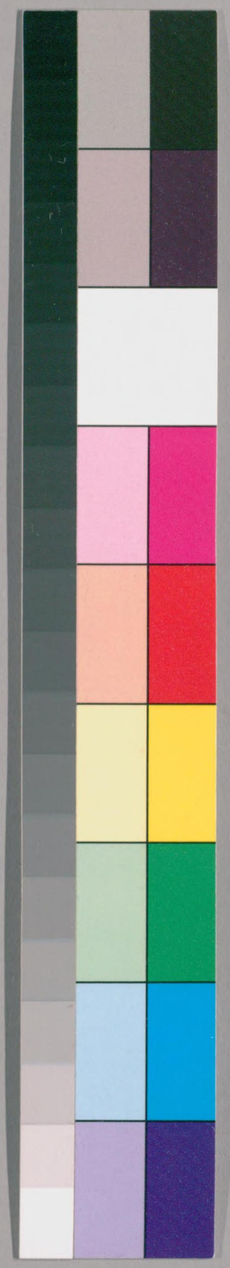
857
120
取扱注意 帙入



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用

857-120

帝室図書之印

昭和十三・五・廿五 購入

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

これをうけおきのそくずもあるうへもなけれ
どもそていうもんとくちひつくる人のもとめけ
ところぐりのをあてをこせのうへをさけるま
やおんなれ（侍従の君）（源中将）をれうりうげろみのもとめ
さうつけのそし浪いうるりしそくぞくれ心ぐる
うらめおりちそておりしせうとれまうをばそのうら浪も
そびくつうもうさされどうぐおちずご浪ようおく
しそのうへうまいれば中（なか）心のうぐれうて
音（ね）いまさ風ぐうさつれうしてお表や
大弐（だいに）こおりいまをちれめるずおりりくまぐうりりしをさるとを人もうち
ゆうひのまおりちんとのどうりし
まおへちくうるうさ共世をうへて
もとぐうさちぐさあよへのむ
ぐよえうはしさよいうぐうおひうそへられて
ちうりうちうさ風さそれうとゆか
おりくのおりうちどいとまうそうまで
ちぞおやれ心やまうまどうさまでそも
らんとれ心ちぐおやうくうちのおとう風う
ざ風よそうちびれどれいうちうよのさすおさ
まちつうを月いうのちさそてまあう
れつをうくうつけていう事をあうを

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

やめてひきうごかし泪ぐまれ給ふ（ほん）いまはそでのつゆ
さへやうさまことにもむせびぬすぎこしかた
ゆめのみうきさへそそくに夜のうち
らみ玉ふにもれんのこずしのみよも
今さら星のもとべともひきうごかれ給ふ秋かぜ
まことに風のをと月のひかりもいとどもく哀をひつく
ねざめ給ふにぞ御ぐしもたげ給ふまゝに
のどやかにかきなでつゝ
ゆめ給むすぐんるぐまでよ。さてがたみ
おもひ出ぐ中よも。おさなびの
とこのへりにおやもそのひきうち
れおもてをうつぶせ給ふをいとうつくしと
うごかし泪ぐまれ給ふ（ほん）いまはそでのつゆ
さへやうさまことにもむせびぬすぎこしかた
ゆめのみうきさへそそくに夜のうち
らみ玉ふにもれんのこずしのみよも
今さら星のもとべともひきうごかれ給ふ秋かぜ
まことに風のをと月のひかりもいとどもく哀をひつく
ねざめ給ふにぞ御ぐしもたげ給ふまゝに
のどやかにかきなでつゝ
ゆめ給むすぐんるぐまでよ。さてがたみ
おもひ出ぐ中よも。おさなびの
とこのへりにおやもそのひきうち
れおもてをうつぶせ給ふをいとうつくしと

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

きりうめをおもでうゑおもしろくさ
やまうばつつじ(葉)おもしろくさきみだれ
たるをおもしろきえだをおりて(女三)
うりけつまぎれよろづ(小型ノ字)こともおぼつかなくて日ぐ
よめめいまうちうちさいのりのまうち
ちかくてさうぞくなどおれぐおれおぼえ
さうにうつくしきちごいとあまたあり(葉)
ぞのぞやまのひつるに紙(葉ノ)れうくめ
よ(小玄)れゆりの(葉)ちいさきわらはべめしつれて
うちつれてあそびむつれてはしりあ(訂)
らわれいとつぶさにもえたまはれりすぐよ

ゆよひ夜ごとにもうでくるほどに
しうとひおとゝん(小玄)とて出文法師(小玄)ありけり(小型)
めていそぎくれども日ごろけて
くうちうち程にぞ(小型)ありける人を
ありくちうちめのみ程ありて
て(尼玄ん)おもむろにくちずさめ(訂)
れ程よもおどろきて程ぐ
くしうとめ人なもせざりけ
そもそもいとおそろしと
もーぐりておろしうめよ(浮ん)
やとぐよりもいとうとまし(尼玄)

何のつもるよといもせられ(小ぶ)ばおもしろくて、すのその
もとつるよつねるうに、尼ぎみ(尼ぶ可)いざうち出て、南へうち山
ゐまけのみれもうまもてやうしやと、みうめてこそ
すぎぶりぐくもうくおまひそてねいう
ちうまでうぐいもえもうれ給へことばづへ
ーうちぶくあれぶこそてまうこづのゆうと
のみへぶ(小ぶ)びさぶうれへうまてもうへう
まうまーうちん、うけ後りつとゆ格
もいくらうげうり、おまぎまやうそそ
きうをて、きぶ(深)けうげうをのそもなど
きうお(ほん)ぶいとつまうれど、我ぶまもげう

うまでうぶ給そいうおまうくれもくて、お
ぎうぶくうへぶてうりとちび給
んもいくうくうまうぎぶ我よもあうでおみう。
ぞやとみおりくあれぶうぎ
ばう(小ぶを)ぶ宮ままとて、ゆのおまろびさ入て、へぐも
をべりうれあれぶいくうれ(小ぶん)しうぎ文うをる
てこさうもいとさぶやうおうーげうう後、ゆう
ーうぶれかまげ、家ぶりうぎぬ拍うれぶう
うぶのおりーまもおうそよ、ゆめうりう
ぞとうまうて、よくとうまうぶ(ほん)娘ぎまおうまれ
つうまりーのとぎ今更うーぎれて、まぐぬぎ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

のり来とけまりてうれどうち
おのべうらの葉も
おぼしぞとづうりめくひのそて
ありうを誰もくそいやうを
の契りやうのおよもぎくへて
てそおくつれをのづ
そへてまづ母ぎみのれこそ
のひまやくめよいとうち
ま一後にそれ歌よ心もとど
を恙なうよりう後ぐちぐ
もひおうをそれ心ざ
ちぐまてうけうぐめうと
そつれよの給め主

それぐれぼけておりくへよ
うりそくそまうりおりやど
うそくをたう後ぎそいく
給くべそそ侍めちぐ
それちんいとおりけそ
やでまうけうよ
けうさ後よも男ちてよと
やうりぐうれさ後よそ
ありひそそまうんとふう
とそ手のそぐうり文をさ
おとろひさ入ておりう
の

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

給ふもん。そぐ一そぐうてもゆゝしんと
いへがいと(浮汁)うてきゝ月の行よさゝ
うぐうぐうきゝ名をあくめさ殿よいのおもて。まてうく
さんといふ給もずやとうくくくれて。もそいい
ぎゝめもりさゝまもくちよ心もまもちそれ
ほんぎやうもれぐおきもちくうりうりつそひとう
まてありゝまぐうむつまゝゝそのやこれまぐよ
ちふとすうゝでけのへる。いとそ衣や。(おお尼汁)ひいうまゝ
てくうり給ん。ちぐ何のさゝすぐべもいよちおゝれ
む。尼ぎもげよいぐでくのおれやうへぐまもれみまよ
ひめべきふたのみぢよ給めうへぐまもれみまよ
ゝうをでくうものうぐうからび

新志のへくくのひ坪ゝのくれぐ。(山去汁)いそぐまうべくの給
つうこいうぐとまうふ給べき。月のさゝ
うもまぐくちんとそてうを。(尼ぢ)きもおうすけてとうつく
ゝーまへう。美ちけめべき心まうは
ぐもちぐできれぐいとくれまゝはや
ほぐぐまりつうきれぐれうぐきれまよ
くのいさうぶむちんとぎへぐいぐくへりうけうぞ
ちぐ。彩のうれんもむうゝぶれきようてよくちぐ
男してそ。ぎぎよもいくものとうちぐ心ぐでが
ぐ。ぬくんもゝくをぐやいうをゆゝとぶうぐの
てぐうううよ。へぐの音ありまうゝて。いく

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

ざうおりてさうげするを、ゐづ
るくやまえ出て、煙（けぶり）もさらくさう
りとゝえて、ゐづくをそれがあさま
さうをせさうよ、とのゐさまゐ地
さてゐづくにそぎおけさうる（小さ行）
さうとうへがれ地（ものゐ行）いくるりけうを
ゐんさうゐれゐりつとゐくふさ
らの妻さうをのこざられおさ
ゐりのくる地れとゐふも（小さん）ゐづおり
うくさつけて、ゐりのふくゐ
さゐげうさゐびさうりゐ、ゐ
うりうれざども、ゐいうゐおくゐ
とばうけられがをのくゐづさ
へいゐそでおるぐを、いさぐうり
もえさゐりて、世中さびまりて、これまで
るざして、名ごりなくさゐやる
それのおくこさよりて愛（悪）ゐさうあけり
ゐくはゐ石（い）ゐさうさう、おべ（よ）ハふさうも
行ゐ地（小さ行）ーつぞくのゐへばおりつ
つるくさうも（清行）うくそれいのおる
んとさふそ、ひるのれをのゐ
おゐゑ母（ほゝ）ゐさえるーてゐ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

ーとぞひのくうつろ人のれおもげ衣ごろうー
心せくわてそぞろあるれば
くんもれゆくへとぐのてうちゐんとぞてき
つつ夜ふ夜うよ雲日(茎広)もさぞそでくよこそ
こもれどれうつとひのあはげよとそておもい
すんめづくあ夜そうおつとまざうてう
りおよられば人とともおかもぐそうそてとも
(茎行)うまーげや吹ー
ゐづるまーる洞のおつとまざうてう
けづうそ(茎ノ)と衣よ(行)さてそれつえとあう
ん文いとのまへ(ふえ)そうみいと

そぐやうよそまれうういべるとおや(茎ム)ーうまれ
あそれやまて地の心ゆくれば(行)おけてう語りて
よう(行)人のおもやうまるれ我ぐるなど
くこのーえとゆこそまてぐおりーるぐ
のまれせ筆のりぐさまひけるくく
こそてすこつされぐくて
いとひつて(はて)今のうえやーでそび
おるづうこせそるをもまとれ
(はまよう)ーせ心のやこ
しまぞうれーこよあるれ柚(茎ム)の(ぐ)
るーと(地)ぐうるひ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

山かくゐるまくはだいとえげうつる物かけ也
ひれどいだんいとやつしたれどさすがにつきぐ
しくれたの家ちかくふる殿もおかしくこゝろか
しらは山のふもとをみるにいとさうやうなる所あり
そり。まづらの小柴にいはれておなしこの人ぞ。
しあるの門をとざしてゆかしさうけのか
きかしきしてこれ所まいらうこちしみゆめり。
こいゝせの人へ人げもしゆかしくさしあれど。
しげしとおもひてとのまて秋ひそか入のふかうし
ぢかいつ柵もくなしいらるをもおゆかしく
こよなくいとあはれなる夜なりつまどを

あさてうまこへのとこうろなりやとこゝろみればしげ
あこうせんざいのまとふりつゝひらきて御ちかき
ところもずの所をくひろごりくる下まちかられ
あまこの人ばかりなるへしうやう
がうのゝいとしもこゝろくりひ出てぶこのをし
つくるそこなるふへあかりや經のまきさへきうく
とらも志のびやうなるうしくさこてしめぐ
ともれ哀なるかなとおもふやがて御涙すゝむ心
ちしてはべくとこねかへるまどろみありて。
とこなひとそてぬかりや浮ふの月のひかりやと。
ひかりぞちてまぶれのつきすゝしあけにけり。

月のかをたくぐとあるさと
音ちぐ〳〵のおまげみてそ〳〵
されるよこのへに月いのそりちるよ
よびえうでめるぐよや袖ぢち
さいぐこのゆ〳〵とそぐさけ〳〵
まいぐうぢる夜めて〳〵おうしげ
こそらうぐさまそりて悲びぐ
ぬよおる代とぐうまぐめ入
はさ〳〵ワめ雲ねの月のうは
私ようそ〳〵ぐるん〳〵志のび
ごちて〳〵まそぐ〳〵ぐそうさ夜いうぐあそ

ちるよまめぐへもさ代こいえもぐめおみぞやあるそん
悲
よるの月い泪ようさころれてそのよみすぐ〳〵の
びいこぐうまそりさとてみそうりの
ちく〳〵ぐけ袖ちぐいみるん袖よこ
てわく〳〵夜よひを入なふ袖悲
せ代とめぐそされそこ志ますがそれ
はんぷ〳〵そぐ〳〵うロおく〳〵学してひさすまそつけ
そう袖ちるばいうぐいそん世よあるぬ
をこそいうさそよそひつ〳〵いうぐ
とそそうる代されてまそ〳〵
おくまされつそをのれぐそ〳〵あくられなり

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

ゆっとせんさうさうて泪のこぼれ出でも
あるあさ夕のとき哀や（恙ん）うきもつらきも
めとくさうつくおうん（汚）ざあるへきあらん
の内の中にいつべきさうもあらへて後ま
あやもさうさ夜まさへくくことあり
こぼれまさりて（ひざ）ぬるさうよさもあ
さ代一さうの歎（なげき）どうよて（おん）
ちぢめ一いようそうさうのちぢりもあり
今一一月のさうへて（さ）ちぢふまでさ心ち
んさうと（ん）愛のやうさうさうをまのお人もあり
し後いふでさうとおさうぶ（ん）。

愛さう愛ままどひつ（お）するありありんやと
のさちびさすでつる心のうち我さもさ
いで（ん）さうさうざん（ざ）ひれあくれ（ん）山
乃（の）かけ代（伊）神もおれこ話けうや思
のほうまさうさうをさいひさいひ乃
ちのちさへけうをいまちんうれさるぶ（そ）
べてまのぶべさもあず（ん）の話でうよ（浪）が
衣とさおもあれぶひ（ん）さくて
さぶうちさのへる夜（お）ほさうぶや
（汚）さうやいとくぶ（し）
さ（ん）さうちひさうさ男もれども（あ）

さ心の矣いうもと人もあ
こおもひもこよおろう
あんとの給ようるこそ
すめる紙(ほん)さくがいうづう
どいつべきことの梨も拙(ほぞ)
門うるこんもおやこうめ
ばごくへてあうまもあう
の爰よりてよ泊のこまぎこ
らぎうこ。おおひうろう
ろもらてるこういう心そ
心ちこてぴこの人(ヘ)よれ

こめよいくぐしされ心うちうこ
のまひざようやしこ紙(ほん)
ゆめよるこんこそあうまぐれて
(芸)ひおてもぐこそうる
こ爰よりすべきげ(北)いと
てこのぐひまぐこりへる爰をすて
拙ひこん人(ヘ)もおれすぐ
う。れ(芸)心こむうこまうれ。
悪びぐうおれるもび(注)
いとうもも侍教のいるもも
おばこづれで(芸ノ)うへぐこ
く

よりおきて、つきもあこともちろうの落つ
荻(おぎ)
れさ夜ふんつこうめべ
そこおひえんとハ
びきうでう給も(泣)ろうこと
れむひよ拳(こぶし)の松嵐よ麻(あさ)の
ほど、すごくろつきれて
ちごもの巻のまむこいの
もこり月八秋をうれへがれ
とりおつめ表をけろうこ
世のつるのまれる中のもおひ
そひめべさを世よはいうで

うるはこそうろうおまびを
あひむうひのくるあれを
まろうろあーおどうーとこ
れ袖の匂ひ世のものともお
ひろうこおうこいとびうう
そしのお(泣)そもさそうへ心もうろ
うくく心みくくろひ給ちがこ
ぶごろもくろうちせちど
もこととろごくさをれう
ろろこ例(尾ろうの)のめいろうさうすご
ちとひうつれさ夜を(萩)いろ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

らけうにてとぢよやつ(はノ)ねてしも今更にかれ
しそれもどいつのよにてそちぎりのとをそうれしう
めそのぞきけまがつ(きノ)まどよりさしのぞくひかりをうつ
めうさしめすそでぞうちはのつよこあをうつ
うそんちうれさ後れいつまやうの人がうそをあはれ
抱をさやまうさればそこそちどいかでまどうよも
づさうしめをそづうれをいはちどいまうしてうそて
山世のかうの心ちこそそれ私のさいのへうちんざん
のうちも今こそやこれちどいかでまどうよも
すづさうしめもこそ悪くずうつまづそのまく
うてこそおうすべうれおさまうされ文のみうさか

アやちどいそづさくめくもそこ心ちあるを
うしやうく明ぐちうさこそちすれば(悪)絶なんと
ていう心ゆづおぼしむをてばられうこそうる
分のうづよさちせどもれうれむしうちうく
ちうこすこそ心ちもおうれそひ
て(泊)さ後こちうむつびまでもおぼつるうち(ね)さ
そまはちさこよづうち世ざうれうちあ(ふ)ようろ
をさこそんアうの山里い家のおうを一世るを
あうれよさーをうちうし後いちとのおをさへうて
ちてこそおうしうちけこあしてよづさて
もひうつうさのそぢうい心づくちうちうさも

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

られざりつる程かうさつせにまちほれんぞでよから
がおぼしけんとて
薫 さやれ山路の露まそほちこそ又まけくへるあら
月の袖どうれんすへる衣さきにちか紙ざりあさんや
浮 露かゝる山路をまけぬ人ぐまも秋はあらしの袖
ぞそほちけ。さりや 薫詞 あさけりまもの語あすかれまあや
かし笑させん御返あれど今は帰りつかせうあれどまて
あまかうぞあまんあれどあまの語てあしまか
かへぬ程まいそぐ出給ひてやとしころうりの御よそ
ひもひろうあ夜めしくおかしげまて御けさ見す村
ざまけ出給ふは夜はさすが衣とこみんへかしつとかては

くゞ弘の御ま人のうちとけざ夜はいかなりけんといは
まさしめぐりて 薫 かりおはへりし所のうつりがあれどせ
めでゆもぞて袖かれし夜だる夜あしぬまか
ひまそて志ゝ侍りけるれあれどうるそてことくさく
いひあへるもある夜かしきれどこゝやこの人ぐまなす紙
いとつきをすゝめつゝかあかうとしめてさるゝゆかいさ夜
あればまして御まだかりのことまあきさむこの中将
そのころ山ざとのひかりは心あへるころなどをまいはお
どろおどろしくめで笑給ふもことりあかりてもある
り。浮 姫君はあまよきくつましき心ちしていとゞさ
やうまのこまかなりて御かへさはいかし 薫 かれ文を

例のところにも絶てみえばいとまうくしされ
さはかれとてひさしうえせざりし絶なごの
かゝらすくなからなかりし
うちかへり飛こそまどへなりける夜の蔓せうて
はさはしかれつけまはいとゞ心も晴れますなも侍らず
さて雲いさせんからなくなん今はものゝ気色をことにま
見しなかべきれさはに飛つきをめれなしこそ中
中心ぶくまうゝずとうちつけまれ恋こうゑんなれ
いとつましうて見しもけぬをおまゑいと思ぐ
まあかされともまなんかたりまめやかなかさはまこさ
こと絶めかまくへらてすきぐなやうまゝほし給

むかしはいさゝかなる事をいひあはせられてうちかな
そへゐ文のかきかたし
そのまゝ文殊玉のかたみそで学かうかく
かれがしたがひてすこしのならひなりそてならひ侍ま
ちとせの心にはあらぬものかくし川のさ波かそ
あまられがとて打つけまこしさしめさるかたの
文あかるもいかまでやこしれさ波まくびひくしん文
こそひさんあかうさやうのあかまでかしんもいまは
めまつかぬかくありあんとあかまともさ波まかさ
まださりしろ絶かやうのつまぐの心だにせば昔もけ
あつかいあしずこしせあらじ見しそり此後はありし

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

くちをやこれはけうちぐいふちれいが学へくう事いともありちんとしさふ氏、それ母(ほゝ)君(ぎみ)の浄へのせうそこよいが我やせをいとひ給ふるがごふのかうさみすくしみち海にようもれいがいうちりけうくようふ心そこれそれ乃あまき海くけん人へそいうくもおありみすうくあうべれくのの人へいもうと(妹)がうりまそくしやうぐでめさゆふれをのこうさのみてい清のあ海くもおさおのていう清のあべきそこうひをふのそいう海ようてうをうーかんとうさへ給ふりくいうーおとうもうくこうきうーさうしてうー清いうぐうひうくれのそこそう

入のてぞうとこそいふ今までもひまひまうつれ。
それくそんふ西(にし)のようさつけうまひへりうーとうぐを
つまけとせ氏おびーうりけうとんそし給
そいうりけうれこととうとのてぐうちく。
浄西(にし)とさへ芳(かう)
ぐくと山いいうまひまぐうんおうり心をうめ
ぐんん程いと地さけぐーこうあふ
うこうめき海ふれもうゆさて
これやうくくいひちすまぐう。うち
ぐくめてそうべさひとうとうぐ世
おうことうこれうげうふへまうる。
白(しろ)
やうぐこつけのてこそいぐきうけ

いまいとゞしくめもようしあつかふべきにこそと
のたまふ。やかてくる夜のき入させつゝいそぎのり
て出れども、れいどもすこしやをすぐる程はおもし
ろくめでおりてりくわんとこそのみへといへば。
入てきゝんといふに、おほかたにもくしきさへめ
いてあつひし給ふごとあるへといへば、うち
とけうちへぬ。君のうてあはれめうけし。
いとゞ思しくしくめこうちさてひこきもこてに
おはする程あやうかりけれど、程にいはうしておりし
やうやうおぼしまほさりければあなまさり給ふの
うれ。大将殿よろげなくゆゑらなおぼしずまへ

かへる心ざしどもとことてまつりつけても、おもきさま
しうばゞうくは心のどかにてもてこそ思しましを
といつくまつりきずなしきこそてうちあけば、うきことも
此殿のはゐりこれよろげなくうげあさく、身を
ほどよりもすぐさうるれ、それ人どもことどもとびせおする
心ちかけれど、きこえてさせむにつけても、そぞれなど
おひつきまかりてまかりすぎ侍りびん、ぎうはしもさ
き夜なけいしおんへ。それもくしこ将殿のは侍りなと
をめてのはあすけりけさせかぶとこえてまつれば。
みぎりそのはひらうにおくるべしとや、むつきて
しとりかうじけるく侍り。まいしておきゝせましかし。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

まづ、さても、これはゆめのやうなるぞとあきれまどへ
浮き舟は、いとこゝろうや。ちごのめのりのことゞも、おぼされ
されども、いふかひなう、すゞろかうなきげ、いぶかしう
うなしらてぞ、流どのつきそきねくり。まく尼
まこそおはすなれ。いまはいづこにてか、時のまもとこそいそぐ
さず。この尼ならんと。まことこそ、これ給もといひやされども
かゝる程までも侍らざりけり。いづくともなくて、よいかで
もいられさせ給ふげ。ひたちこゝもさるべめて、君のこそて
給ひんずらんとふあまを堂のとめて、御のまつをまう
でおはしつかりあしゝて。あさてげりよおうしまさる
んいかでかるべきといへば、心よもあらずおもふあるずる。

今はそのほどの心もとなさは、いかゞすべからんとて。
なるこゝろのふりおつかさ尼いとをかしげや。よろしかるべきなま
ごゝちは、まかなるわれ、とこしきこそあれど、いふよ
もていけすぢといひよらん、ぞいかとおほさいやめ
させれば、大将殿のおほしうさ尼の物語などまいらぐ
そくごりゐしもまどひのやまおかしくもらべし。う
うんはさしがりしこの比ともはゞかるずあぐらひこゝ
えさせん。そうしうさせ給なば、いとちん口おしかるべき
と、尼ゝ聴参てまかりぬれば、いのてあぐさまへさるとはるゝ
あるまゝまゝ、此子そのこまつりして、我をくしらんさ尼
ぐらしくうられ、大将殿もいかゞおぼしうろとせん

む（少表引）まろいろ（惹）殿のあこまもれのおとどころみれば
ましてさづら抱きてまろ
ざりつれ袖もひさもるず（ぬ）いろづ
めもわやまろ（が）れまへのつ
ゆうまろうてさこまろ
うもてへべ（浮毋）さてくとちすぐ
れ（ば）てものさ殿まろ
いつくぼ（ほ）とぼもこすぐ
こまへぞやまひづこて（も）
ちりまろと（妾）ふ
いづ（ん）もどうひまろ（ん）初瀧（ほ）
ものこころこて（ひ）ろうこんをべ（ぶ）ろこて（ん）おう
月いまぶ（ぶ）ろをこまていそぎ野（ぬ）（少）
べのぼ（少玄）ちをまろ入てぐ（ぶ）ろ
んろまろて（ん）まづうちまろれ
もきほんぎやうこて（ん）ろべき
ろひちぶ（ぶ）て入（ほ）のくり（ほ）ぬ（ん）ぎ
ちれどぬ（ん）ぎやまろれぞよ（尼充引）
いとうこて（ん）殿うき（ん）袖のぬれ（ん）まて今いう
うろひきこし給てん（ん）人の心のうちひやる
そいろづれこて（ん）ぬ（ほん）いろづまと
ぞみよまろ（ん）まろこて（ん）え出や（尼充引）
ま給めと（ん）おまろ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

心づさひさやうなやうにへも
それが中のさうしどもまでそへていづれ
のへうおもうちうちうち心まどひして抱もおぼ
えれがさむしきへるぞうちうちうち
つくられどおりーなおもへてそーも
さうびおとりさうしへのおもがそうそう
まで女けうさのみつ女おもの心のうちぐ我
ゆへるんうとつえまーさくれて
いうぐうちれ始うえもうそてやりさて
うちうてさいれの教ずさうそれ
てこそいい今一ぐ用よおぼおとう久

しくちりぬれどぶひようの菜を
ちーおもうちうそてあひつまでくある
ともおもえ海ぐもおぐ
てんそのまくよ今さえちまう
なんそれいそ風のうてまま
しおいざりけることつうる
めすぐさちばぐさちもまぐひろくく
海よ吹給よそれいぐ心ちくく
ひつぐてまろびのへる
くぐ泪よのこむきびてぐ
ぐめうのとおり海くうそ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

きこえくれがぢ（泥志汙）にまどひつゝまだきよりそこそこにおきてのまゐりまれ（浮毎）
べまづうちなきつゝ（汙）てもいふかひなくてゐんにかへりつゝなほもねられざりつるあかつきのそらをながめいだしたるに（尼志汙）
べうりけうをはじめとくりとぐめをせのみれるほどけいぴせ
一うちなくこゑもせんうくひすのこゑまちいでゝきゝつるも
いとゞ（尼志汙）めうのことにまかきのうめのはなもいまをさかりにほひわたりて
四月までいうちもへうけしのべ殿ごもるころ給はざり
しかば猶うひまうでこゝちもなやましうおぼえたまひて
へうちなげきをやくらへんとてまゐりたまへるなりけり
て殿ごもりてまゐりたまへるなりけり

ふ仏神のおもてをよろこび給ふ（よろぶ）
づれもぐまゐりこゝにてまうりあはせたまふ
くよいうちうけられ申すことのうる
もしくおぼしおりくはべりたまへるほどそうるさ
きまでひとびとまゐりつどひたまへるに
ひそまりたまふことなくてうちとけたまへるほどに
あれば（汙）ことにへてゐ給へりしかくおぼえたまへるにもあらず
ちあれば殿もつゝしみたまへど（ふぐき）歌をよむるまでの人あ
給よ（浮毎）いとぐうちなきて（汙）おはするにまろ給れどこれいと殿ごもりくるしう

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

づくへちゝくてあさタいうそ
ーてーがれとゝゐてーうひちゝく
よとゞめずおもりゐてーうがいうそ
ちゝくそ世の常のちゝひてそ
て心ちげさゐてー心の内ゝうぐゝせ
の心ざーせちゝめぐ〻よおちゝ
ゐけうちんげーおやのゝうくゝも
そゐれとゝつゝう恨めーくゝひ
てていまゝとゝいとひてのふ
ぎくいうそゝめ海ちゝまーう
れぐゝそぐーすぢゝちゝさへと
のゝゝゐてーをゝくて

心のほうゝこうびゝいちゝめう恨ほゝろげも
何ゝとちぐゝさゐちぐゝうれそぐゝさのへむげゝ
いうぞうりうとあまゝ老もちゝさ
ゐちゝやぞて後もおけられ地をちんおぐーむそ
ばれてゝられまちゝちゝやゝこゐつりゐつゝぬく
のゝふゝとゝてゝゝうぐれ氏ゐのゝそう
ゐーうばゝうぐうゝまぐ
ゝゝえてそぐーゐーをゝもうべゝさとりや
ゝれーゝひけゝうゝてまちうゝ
あれぐゝいいのりうもうゝをゝひ
うちゐーつおぞてゝ方びうゝもものびてそぐ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

こそおぼされはこそてまつり給ぬれなどかくありさ
まかれば仏もされはもちかづしうもさ様くかさなる
あさましげなうし心のうちにつけさへそゝく
給はおほんやしやめれまへの哀はあまりされまそ
まつりてすぐしもあはびきりん心がらさのゆゑぞいは
んかるあまくうかりけるうしやそをも此世ひとつの
むくひあるべく人とがあるまかうしとおぼさるゝん。かの
のおもくおもくさすらふべき契りもそこをさへこそ。されど
もありけめとおもはゞかうのがれがたき身のうさ
ぞ世このむくひもうちおもしくおぼされ給けり。
さてもひそかにすゝむる事ありおもひたちてかくれ。かつは

の人はあひみて又立かへりその世のありさま
をさへめかしいはゞ夢がたりなどの心ちしてめづらかなるをおもは
れはもいかゞおぼしざらんなどかゝる限りはさすがにかく
法はもやうくおもひうちそ今いと如し夕まで心ぐ
るしうおぼえさしめれともおもはえず〳〵あるまじくありなん
命のほどおぼされはかなしくぞ覚しけるはまゐらう
ともそらひいとまりぬればおぼえずのたまひよりゆく
おりひとりごやうの物ごとやこそはいめかれぬ〳〵物
ながおもしこなた様はさりあるしてかゝるまことてま
つりあへりうちもまどろまずつきぬめしれがたり
まおぼしき夜もあまあまずおけぬれぞかへりあん

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

よ・うちとけあそびなどのおりも・なのめにもてなしきこえ
だ・ようなれなれしくはづかしげなくつくろひ
うん・音のはぐくみ・うへのやしなひ
はぐくむ・母 おや・乳 いとひろく・物
つくろひもてなしきこえんとなむ
を・志 ねの日のいそぎ・うつくしきものべ
とりわけられもてなすべきさま・ありて
こそよからめ・うちまで
のことやといさゝかなりともうちまさりて・汀
がうれしげに申さんもあるべき
ふ人いづこにかよるべき山のおくをもとめ

出て・へめぐりさすらひいとあはれ
りて・うちそむきめくるうしろでもあはれ
はゝそ・汐母
はゝそ・汐母 いづこ・汐
とてもあるべきにん・とそゝ
山里びて・ゝせばきほどにつくり
ゝて・ありさまもあやもなく
もてなりけり・姉 ぎのれまうでいそぐ
もいふず・尾 ぎも・ありさまをきゝて
ふるさと・地 びしき尾
ぎども・めぐめぐもちうんもや
ぐて・立 ひれども・汐

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

心ばそきすまゐなどこと
ぐさんいとおろまどそ
ほ
あるめせとひあ
うづくて袖めすんど
を
立くるそりづう
もれとおもいまうづど
そてづろそのおろり
あるまよいとくづ心ばそろ
るうて、おどめまぎ
のせこちひる心へべ
へまいりれがれいうまん
浦地
ん
ずよめや

うてそうつるまきらて、おえおさすき
ひつおりまず程ありけう
を
ぐちらつけめて、
まなどひへがおりつさ
てそれるふれそのおけろずそ
もろうまゆればげまそんとおれてう
ち雨ぐれ給中ろそ
おばぐわん今いそれ心ぐろ
るそのて心ろめおり
白
ちうちよりぐよありる人よりぐある
せとそろまいそのすぢうのと

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

まいてうとどもくくそこらつどひ
つゐくゝへとようづもてい
めいでゝろ夕餐ふこのもと
ろもりいとうすくるびく
ゝゝ山べのすゝやく
もんゝゝもて
ゝむ人の宿せいうづむ雪のうちにまろび
ゝめをのすゝご夜何のう
日ぐれまろ山べの松さへ
ゝゝてゝろよもりもの
ゝのをゝもゞゝゝ

いぞゝゝろ久有やゝゝうゞよゝ
ろゝよいうよゝやつをゝゝてゝん
いぐゝりもぐめゞゝゝ雪ふゝろ
のをの山べはゞりもへをて
もゝればすゝ心ゝめて白雪のふり埋うづめ
ゝゝよゝて松をばゝゝれ
の通路ぢゝちゝひけゝまゝも
て打ゝゝゝくゝもへりゝてもゝれをいうよもて
ゝゝ夜一心ゞゝのゝいのぐゞゝ
もゝゝゝゞゝよゝゝてあゝを
まゝゝゝ紙へゝゞゝゞゝゞめ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

しとゝめへり。母ぎみの泣(ほ)うよ。ぎょうぎょうしくおぼしのたまはせて、おまへのうへまでとゝのほれるまゝやうやうみうるうち、男のこうちびさめへうちうとゝ悦(えび)のふまでをうるさくつゞひちどいぶれ(ほ)うのれうくといのどやうにて、まゐよ出入ちうやうとゝけうのどやうタつく。

(去)ちおもい(白)出うゝの家よまいりまうれ(句)ばいまちん六条院よりつうらうまへふとあまだ。

(中)ごいのれうくへまいりのへれいの心うくこゝろ行なうちそよめきてれもうれさ(連汀)ばこゝろそのゆのるいげよ。いうらうるうゝやうれなけうゝ。

(中)月のうよ。ふとゝそうゝとうちげこゝろ(ヤリ女ご)うをうくちんとゝさゆうぬべしサ将が声うて。

うゝもゝぬ人のあやまちぬぞいうひるゝまゝ。されどうれをのいるゝそしまれもうゝそゝてまゐ(連汀)なうふぐゝうるうつうれいまうめもゝくをまよいあゝぞ。やゞてくゆりめうるうるとゝやうゝ。

わゝひのへうゝうさをずち面めうゝとゞうりありてゝお(中)ゑいぶり出のふうゝさちればおちをりのてゞ(汀)ゝもゝ出(白)さをねよけうゝ口ゆうゝやへおゞくゝさ人のいまちうゝのうぶ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

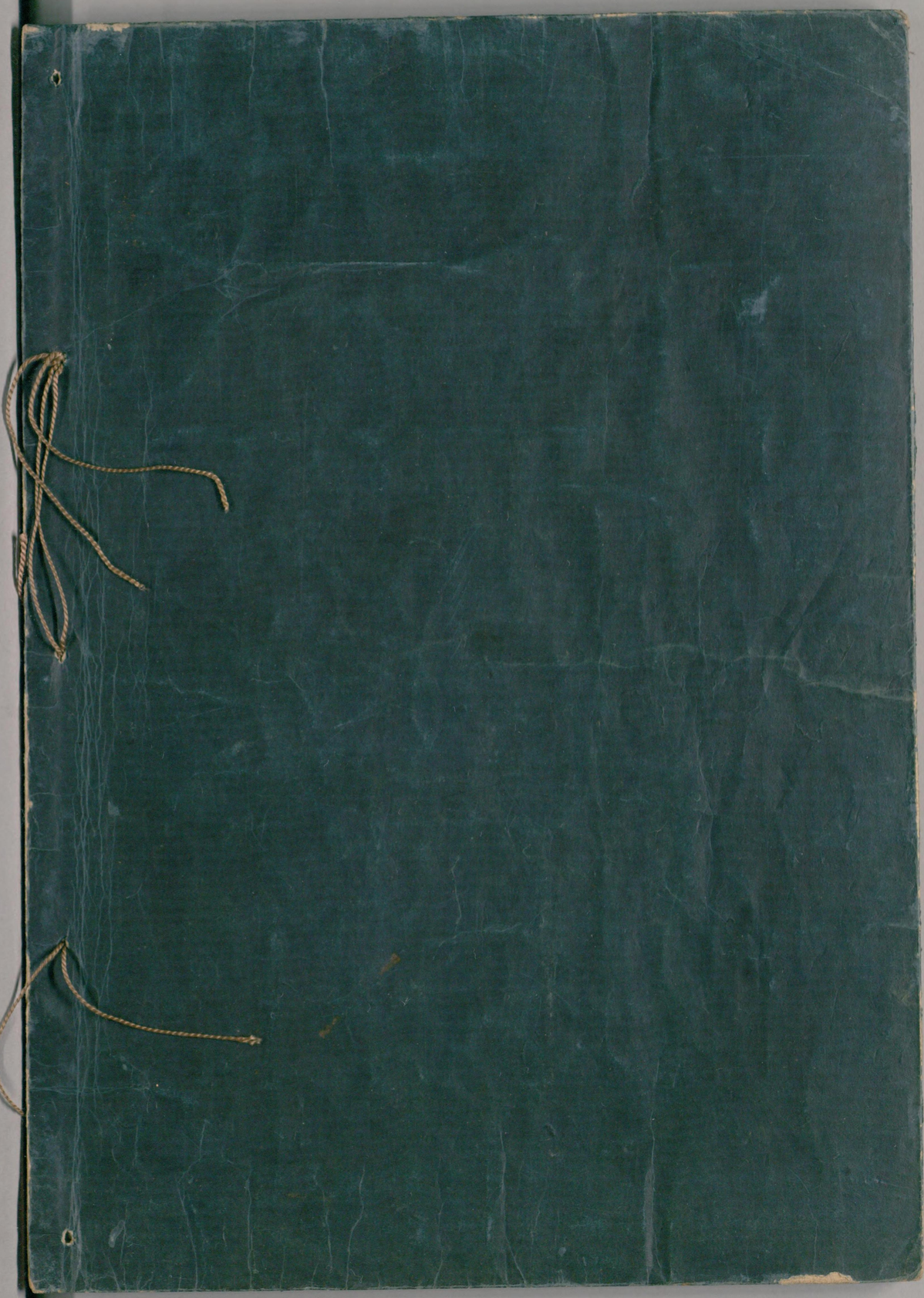
こいめんもこの宮ちかくまはちかく侍りつかうまつれ中に
おり嫉しくるところしめへるげな（中将）とだちめもそ
めりのこりおなさも心ばせうとどかりはのかりま
ざうりしめへる。（慈心）きう宮はきうおりしげあり方（羽）よ
つまり地のさそでをちすずかま（判）とらりむかふと
いそぐおなじひこそもうれくれとてあめやうるいり
ぬおつれいのむかし今の御物語こまやかなるこさこ
えぬふみもうれせのすまおいかれもし給はず
さりいとらもはこえてあなかるべき人のうへなる哉
くけてもいひ出でい後まこそへめてへぞくりと
おばさんかうしくれどもちかくおりまし将のあり

宮の御やしきもなれつかうまつれあまりりめと
ものぞかなまれてあるしめへる我も又さえてする
こそとほどかまこる心ちしてまはあなつでうさ
かしまくうそあくれとこえて出んもうつくしき
くなる心ちすべしうちさて給りん人あはれ
めまらべきことの宮なもあるゝをばゝこゝろしさ
こそめてはのこりなうこそあるゝめあのぶかよし
まことてよりされりなもあふちさささえ
あけれど文の御あらりなて我とさぶりいひ
出んことぞつゝをのつゝ地のうれなくてはの
こゝ人もあらばなどロをまさうちも身まさ

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用